

NSSF工法 建物計画可能範囲及び構造基準【概略】

住宅系（1～3階）

1) 建物計画可能範囲

①	階数	1階建て～3(4)階建て
②	最高高さ	14m
③	軒高さ	10m
④	用途	戸建、共同住宅、寄宿舍、児童福祉施設等（長期積載荷重：1,800N/㎡以下）
⑤	延床面積	4,998㎡以下
⑥	各階床面積	1,666㎡以下
⑦	長辺長さ	80m以下（第一種地盤） 60m以下（第二種地盤） 30m以下（第三種地盤）
⑧	長辺/短辺	10以下（べた基礎の場合） 5以下（布基礎の場合）
⑨	基準寸法（モジュール）	1P=910mm
⑩	階高	3階建て 2,987mm【床パ° 裨（床根太239+硬質木片セメント板18）：257mm+壁パ° 裨：2,730mm】 2階建て 2,987mm【床パ° 裨（床根太239+硬質木片セメント板18）：257mm+壁パ° 裨：2,730mm】
⑪	屋根形状	切妻屋根、寄棟屋根、段差屋根、片流れ屋根、陸屋根
⑫	屋根勾配	勾配なし（陸屋根）、3/10、3.5/10、4/10、4.5/10、5/10、5.5/10、6/10のいずれか
⑬	防耐火躯体仕様	1時間耐火構造、60分準耐火構造、指定なし

2) 建物計画の基準

①	耐力壁の最小長さ	1P
②	耐力壁の有効長さ	1P以上 かつ 0.5P×整数倍
③	耐力壁線区画のアスペクト比	1/3以上
④	壁線区画の面積と壁線間隔	72㎡以下（アスペクト比1/2以上） 60㎡以下（アスペクト比1/3以上1/2未満） かつ 短辺長さ6m、長辺長さ12以下
⑤	耐力壁量	※1) 耐力壁線全長の1/4以上
⑥	開口幅	※1) 4m以下/1ヶ所 かつ 開口幅の合計は耐力壁線全長の3/4以下
⑦	連続する開口の間の耐力壁	耐力壁または支持壁または直行壁を配置 1階：1P以上、2階以上：0.5P以上
⑧	吹抜け面	吹抜け面に面する床の下部には耐力壁を配置
⑨	外壁回り	原則耐力壁線を構成
⑩	上下階の耐力壁の位置	原則耐力壁の位置は一致させる
⑪	上階の耐力壁量	見上げの床面積に対する耐力壁量が、下階の60%以上とする
⑫	耐力壁の斜め配置	禁止
⑬	耐直壁が雁行する場合	ずれが2P以下の場合は「同一の耐力壁線」とみなす
⑭	出隅部分の開口制限	両面掃出し開口禁止
⑮	出隅部分の腰壁、垂壁必要寸法	腰壁：880mm以上、垂壁：770mm以上
⑯	耐力壁の配置バランス	建物の重心線を対象にほぼ均等量となるよう、なるべく外側に配置
⑰	片持ちバルコニー、片持ち廊下の寸法	（根太を張り出す場合） 張り出し寸法：1.5m以下または計算による 開口寸法：12m以下 （梁を張り出す場合） 張り出し寸法：1.2m以下
⑱	パ°リッリ-床落とし込み高さの下限	下階耐力壁上端より-250mm
⑲	床構面に設けることができる開口	直径200mm以下の開口
		直径200mm超の開口は下記基準による
		（直径200mm超の開口1ヶ所の場合）
		・耐力壁線のアスペクト比（短辺/長辺）1/2以上の場合 6㎡以下
		・耐力壁線のアスペクト比（短辺/長辺）1/3以上1/2未満の場合 4㎡以下
		・他基準あり
		（直径200mm超の開口2ヶ所の場合）
		・別途基準あり

※1) 構造計算により基準数値以下でもOKとなる場合あり。

